

Ⅱ．解説

【国宝（美術工芸品）の指定】

<絵画の部>

（重要文化財を国宝に 1 件）

① しほんちゃくしよくじつげつ し き さんすい ず
紙 本 著 色 日 月 四 季 山 水 図 六 曲 屏 風 一 双

【所有者】 宗教法人天野山金剛寺（大阪府河内長野市天野町996）

【大きさ】 縦147.0cm 横313.5cm

荒海を囲む山並みに四季の循環を表し、空には日月を配した室町時代のやまと
絵屏風。動感あふれる構成に大らかな加飾と鮮やかな色彩が共鳴して独特の迫力
を生み出している。我が国の絵画の特質が顕著な優品である。（室町時代）



＜彫刻の部＞

（重要文化財を国宝に 2 件）

① ^{もくぞうせんじゅかんのんりゅうぞう}木造千手観音立像 ^{れんげおういんほんどうあんち}（蓮華王院本堂安置）

一千一軀

【所有者】宗教法人妙法院（京都府京都市東山区妙法院前側町 4 4 7）

【大きさ】像高 1 6 5 . 0 ～ 1 6 8 . 5 cm

三十三間堂の通称で知られる^{れんげおういんほんどう}蓮華王院本堂に安置される千手観音の大群像。
^{ちょうかん}長寛2年（1164）創建時のものが124軀のこり，残りは室町時代の補作1軀を除きすべて鎌倉時代の再建時の製作である。王朝文化の華やかさと，壮大な規模を伝える記念碑的作例であるこの群像を，45年に及ぶ保存修理が終了したのを契機として国宝に指定する。（平安時代・鎌倉時代）



② ^{もくぞうしてんのうりゅうぞう}木造四天王立像

四軀

【所有者】宗教法人興福寺（奈良県奈良市登大路町48）

【大きさ】像高（持国天）204.0cm （増長天）202.2cm

（広目天）204.5cm （多聞天）198.0cm

長く興福寺の中 ^{ちゅうこんどう}金堂に安置されてきた四天王だが、本来は文治5年（1189）
完成の南円堂 ^{なんえんどう}の像として造られたものであることが判明している。先般東京国立
博物館で開催された運慶展の終了後、この像は本来安置されていた南円堂に再び戻
ることとなった。それを一つの契機としてこのたび、南円堂の仏像の中で唯一国宝
となっていないこの像を国宝に指定する。（鎌倉時代）



<書跡・典籍の部>

(重要文化財を国宝に 1 件)

① ^{こん し きん じだいほうしやくきょうかんだい}紺紙金字大宝積經 ^{こうらいこくきん じだいぞうきょう}卷第三十二 (高麗国金字大蔵經)

一卷

【所有者】独立行政法人国立文化財機構（東京都台東区上野公園 1 3 - 9）
京都国立博物館保管

【大きさ】縦 29. 1 cm 横 881. 2 cm

世界で現存するうちで最古の^{こうらい}高麗写経で、藍染した紺色の紙に金字で写経する。^{こうらい}高麗王妃であり、王母でもある^{せんしゅうおうたいごう}千 秋王太后が^{ちようしん}寵 臣の^{きん ち よう}金致陽とともに願主として作成させた^{だいぞうきょう}大蔵經のうちの一卷。南北朝時代以前に日本へ伝来した。
(高麗時代)



<古文書の部>

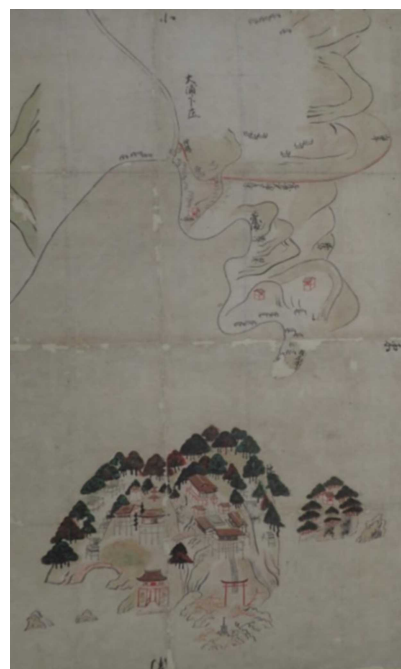
(重要文化財に有形文化財を追加して国宝に 1 件)

① ^{すがうらもんじょ}菅浦文書 (千二百八十一通) ^{すがうらとおおうらしものしょうさかい え ず}菅浦与大浦下庄堺絵図

六十五冊
一幅

【所有者】須賀神社（滋賀県長浜市西浅井町菅浦 4 9 8）

^{すがうら}菅浦は、琵琶湖の北岸から突き出た岬にある村落で、中世から自らの^{おきて}掟 を持つなど、村落の自治が発達していた。堺絵図は、隣庄の大浦と境界を争ったことにより作成したもの。中世村落史研究上、我が国で群を抜いて著名な史料群である。(鎌倉時代～江戸時代)



【重要文化財（美術工芸品）の指定】

＜絵画の部＞

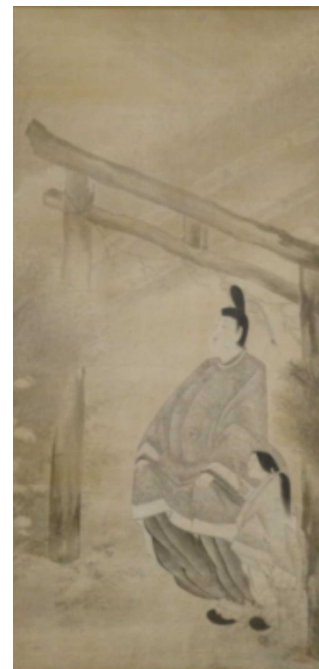
（重要美術品を重要文化財に 1 件）

- ① ^{しほんぼくがたんさいののみやす}紙本墨画淡彩野々宮図 ^{いわさかつもち}岩佐勝以筆 一幅

【所有者】公益財団法人出光美術館
（東京都千代田区丸の内 3－1－1）

【大きさ】縦 131.3 cm 横 55.1 cm

^{いわさまたべえかつもち}岩佐又兵衛勝以（1578～1650）は、戦国武将
^{あらきむらしげ}荒木村重の子で、京都・福井・江戸で絵師として活躍した。
本図は、かつて福井の豪商が所持した「^{かなやびょうぶ}金谷屏風」と称される
屏風の一図で、『源氏物語』第十帖「^{じょうさかき}賢木」に説かれる
場面を描く。岩佐勝以の福井時代の代表作である。（江戸時代）



（有形文化財を重要文化財に 8 件）

- ① ^{こふんへきが}キトラ古墳壁画 五面

【所有者】国（文部科学省所管）

【大きさ】東壁 縦 112.1 cm 横 203.7 cm
西壁 縦 112.8 cm 横 204.2 cm
南壁 縦 95.7 cm 横 72.8 cm
北壁 縦 112.2 cm 横 105.7 cm
天井 縦 105.8 cm 横 169.3 cm

高松塚古墳に次いで発見されたキトラ古墳の壁
画。^{しほうしじん}四方四神と十二支並びに天空の天文図が表現
される。高松塚では滅失している朱雀が良好な状
態で残っていたことは貴重で、天井の天文図も東
アジア最古例として極めて重要な遺例である。我
が国の絵画史の幕開けを飾る重要作例である。（飛
鳥時代）



② ^{けんぽんちやくしよくちこうまんだらず}絹本著色智光曼荼羅図

一幅

【所有者】国（文化庁保管）

【大きさ】縦 77.9 cm 横 38.8 cm

^{ちこうまんだら}智光曼荼羅は奈良時代の元興寺の僧^{かんとく}智光が感得した^{あみだ}阿弥陀浄土図。現存作例は乏しく、奈良・元興寺^{ごくらくぼう}極楽坊の板絵（重文，鎌倉時代初期）が最も古く、本図はこれに次ぐ鎌倉時代後期の遺例として極めて貴重である。（鎌倉時代）



③ ^{けんぽんちやくしよくくまのまんだらず}絹本著色熊野曼荼羅図

一幅

【所有者】国（文化庁保管）

【大きさ】縦 113.8 cm 横 50.6 cm

鎌倉後期に制作された、熊野信仰に基づく礼拝画像。上部に北斗七星を表す点などから天台宗^{おんじょうじ}園城寺派の周辺で制作された可能性が指摘されている。この形式の画像としては京都・^{こうざんじ}高山寺本（重文）とならぶ最古例として貴重である。（鎌倉時代）



④ ^{なんぶう}南風 ^{わ ださんぞう}和田三造筆 一九〇七年
油絵 麻布

一面

【所有者】独立行政法人国立美術館（東京都千代田区北の丸公園 3 - 1）
東京国立近代美術館保管

【大きさ】縦 151.5 cm 横 182.4 cm

^{わ ださんぞう}和田三造（1883～1967）は
^{くろだせいき}黒田清輝に師事した我が国洋画壇の重鎮
である。本作は伊豆半島沖で遭難したこ
とに着想した作品で、明治40年の第1
回文部省美術展覧会に出品し最高賞の二
等賞を受賞した。和田の出世作であると
同時に、我が国の洋画における外光主義
の記念碑的な位置にある作品である。（近
代）



⑤ ^{しほんぼくがかそねはんず}紙本墨画果疏涅槃図 ^{いとうじゃくちゅう}伊藤若冲筆

一幅

【所有者】独立行政法人国立文化財機構
（東京都台東区上野公園 13 - 9）
京都国立博物館保管

【大きさ】縦 181.7 cm 横 96.1 cm

^{いとうじゃくちゅう}伊藤若冲（1716～1800）は江戸時代中
期の京都で特異な画風をもって活躍した絵師。本図
は種々の野菜で涅槃図を表したもので、戯画の一種
とも言えるが、^{ねはんず}錦小路の青物問屋の家に育った若冲
^{にしきこうじ}の面目躍如たるものがあり、水墨技法を駆使した若
冲の代表作のひとつである。（江戸時代）



⑥ ^{しほんぼくがたんさいばくふ}紙本墨画淡彩瀑布図 ^{まるやまおうきよ}円山応挙筆 安永元年四月の年記がある 一幅

【所有者】宗教法人相国寺

(京都府京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701)

【大きさ】縦362.8cm 横144.5cm

我が国の写生派を代表する ^{まるやまおうきよ}円山応挙の作品が数多く遺されて ^{えんまんいん}いた滋賀・円満院に伝来した作品。安永元年（1772）、^{のこ}応挙四十歳の筆と判断される。紙継ぎのない特大の一枚紙に描かれており、自然景物の圧倒的な存在感を表出する技能に ^た長けた ^{あんえい}応挙の代表作のひとつに数えうる大作である。（江戸時代）



⑦ ^{けんぼんちゃくしよくみろくげしやうへんそうず}絹本着色弥勒下生変相図 ^{りせい}李晟筆 一幅

【所有者】宗教法人妙満寺

(京都府京都市左京区岩倉幡枝町91)

【大きさ】縦227.2cm 横129.0cm

日本に伝来した ^{こうらい}高麗時代の仏教絵画の一つ。本図には ^{しげん}至元31年（1294）の年記と高麗の宮廷絵師 ^{りせい}李晟の名が記されており、高麗中央画壇の基準作として極めて貴重である。高麗仏教信仰の独自な特徴を示す点で東アジア仏教文化史上極めて重要な作品といえる。（高麗時代）



⑧ ^{けんぽんちゃくしよくあみだじょうどず} 絹本著色阿弥陀浄土図

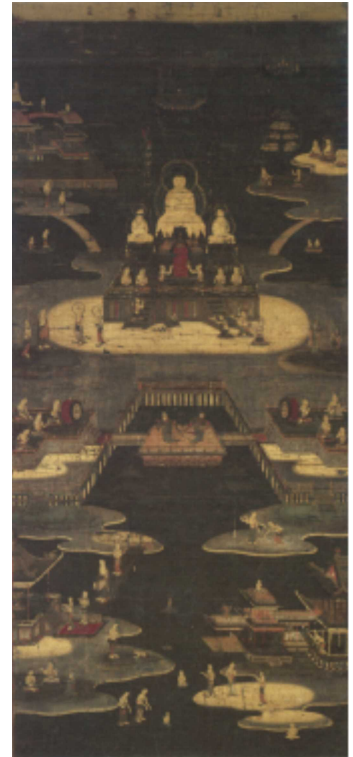
一幅

【所有者】 宗教法人清凉寺

(京都府京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町46)

【大きさ】 縦95.5cm 横42.9cm

鎌倉時代以降に展開する独特の図様構成を示す浄土図の一例。本図は平安時代の源信^{げんしん}『往生要集』^{おうじょうようしゅう}等に記される極楽浄土の様子をつぶさに描き込むもので、これまで注目されてこなかったひとつの傾向を示す貴重な作例。緻密な描写や金銀の多様など、表現様式の上でも高く評価ができる。(鎌倉時代)



<彫刻の部>

(有形文化財を重要文化財に 11件)

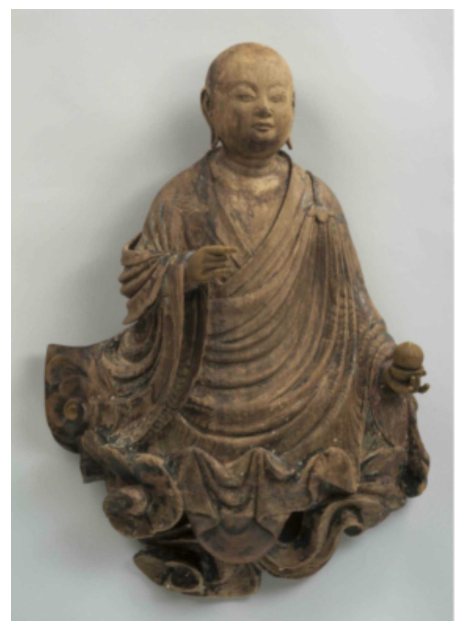
① ^{もくぞううんちゅうくようぼさつぞう} 木造雲中供養菩薩像

一軀

【所有者】 国（文化庁保管）

【大きさ】 像高57.2cm

僧侶の姿で雲にのる像で、^{うきぼ}浮彫り^{ほうおうどう}的技法を用いて表されている。平等院鳳凰堂^{めぐ}の壁に廻らされる雲中供養菩薩像^{ぼさつ}の一軀^くであったと考えられる。鳳凰堂の建立された天喜元年（1053）の製作で、和様^{わよう}といわれる日本的な彫刻様式を完成させた巨匠、定朝^{じょうちよう}の主宰になる造像として比類ない価値を有する。(平安時代)



② ^{もくぞうかんのんぼさつざぞう} 木造観音菩薩坐像

一 軀

【所有者】 宗教法人東川院（岩手県一関市大東町渋民字小林 3 5）

【大きさ】 像高 114.3 cm

本件は穏やかで繊細な作風に平安末期の彫刻様式を示す観音菩薩像で、奥州平泉において藤原三代による寺院造営にたずさわった仏師の手になると推定される。その様式は中尊寺金色堂に安置される仏像（国宝）の中で、二代基衡の^{もとひら}棺^{ひつぎ}を納める壇のために造られたとみられる一具に類するが、吊り気味の目などより新しい傾向もみられ、1170～80年代頃の製作と考えられる。

東北地方における仏像製作を考える上で重要な遺品である。（平安時代）



③ ^{もくぞうしょうとくたいしりゅうぞう} 木造聖徳太子立像

一 軀

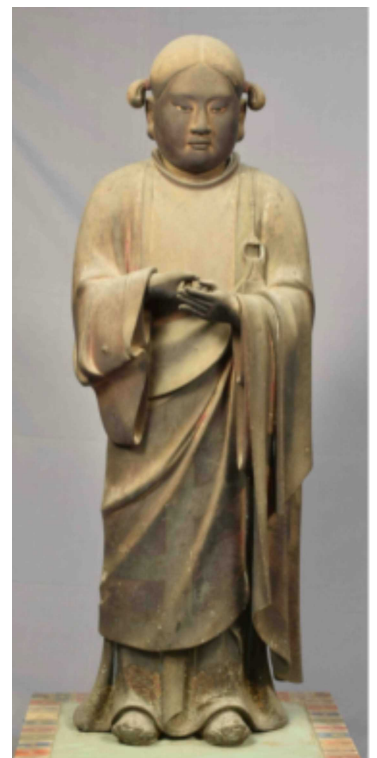
【所有者】 宗教法人本山慈恩寺

（山形県寒河江市大字慈恩寺地籍 3 1）

【大きさ】 像高 94.1 cm

少年の姿の聖徳太子像で、像内に納められていた^{けつしよ}血書^{しょうわ}（血による書写）經典の奥書より正和3年（1314）の製作であることが知られている。この時代の彫刻の中で、製作年代が判り、^{わか}かつできばえが優れた作例である。

鎌倉後期以降の作例の調査研究の進展を踏まえて重要文化財に指定する。（鎌倉時代）



④ ^{もくぞうじぞうぼさつりゅうぞう}木造地藏菩薩立像

一軀

【所有者】宗教法人西光寺（愛知県津島市米之座町2—8）

【大きさ】像高159.6cm

等身の^{ぼさつぞう}地藏菩薩像で、運慶周辺の仏師の手になる。最近行われた保存修理により納入品が発見され、^{ぶんじ}文治3年（1187）から^{けんきゅう}建久4年（1193）頃にかけて行われた^{しょこくかんじん}諸国勧進により多くの^{けちえんしゃ}結縁者を得て製作されたことが判明した。これらのことを踏まえて重要文化財に指定する。（鎌倉時代）



⑤ ^{もくぞうあみだによらいりゅうぞう}木造阿弥陀如来立像^{かいけい}快慶作

一軀

【所有者】宗教法人圓常寺

（滋賀県彦根市城町2—4—62）

【大きさ】像高98.8cm

鎌倉時代を代表する仏師^{かいけい}快慶の晩年、^{ほうげん}法眼時代の製作であることが、^{あしほぞ}足柄の銘文により判明する^{あみだによらい}阿弥陀如来像。快慶が数多く造った阿弥陀如来像の中でもすぐれた出来栄えを示す像として注目される。昨年奈良国立博物館で開催された快慶展で成果が示された、近年の快慶研究の進展を踏まえて、重要文化財に指定する。（鎌倉時代）



⑥ ^{もくぞうしてんのうりゅうぞう}木造四天王立像 ^{しょうそん}(焼損)
^{しょうざいじきどう}(所在食堂)

四軀

【所有者】宗教法人教王護国寺（京都府京都市南区九条町1）

【大きさ】像高（持国天）289.7cm（増長天）290.2cm
（広目天）277.6cm（多聞天）289.5cm

9世紀後半から10世紀にかけて多数の仏像製作に関わった真言僧、^{しょうぼう}聖宝の関与により造られた巨大な四天王像。日本彫刻史における重要作例として知られているが、昭和5年の火災で表面の大半が炭化し、旧国宝の指定を解除された。合成樹脂を使用した保存修理が行われて20年以上が経過し、現状が良好なことから今後の保存維持の見通しが立ったと判断し、重要文化財に指定する。（平安時代）



⑦ ^{もくぞうやしやじんりゅうぞう}
木造夜叉神立像

二軀

【所有者】宗教法人教王護国寺（京都府京都市南区九条町1）

【大きさ】像高（東夜叉）193.0cm （西夜叉）204.0cm

かつて東寺中^{ちゅうもん}門に安置されていたもので、樹神^{じゅしん}（樹木の精霊）の像。その迫力のある造形や一木造りの技法から製作は9世紀末に遡るとみられる。平安時代後期には靈験像として崇敬されていたことが知られている。この種の作例の中で最も古くかつ大型の遺品である。（平安時代）



⑧ ^{もくぞうしてんのうりゅうぞう}木造四天王立像 ^{りゅうけん}隆賢作

四軀

【所有者】宗教法人薬師寺（奈良県奈良市西ノ京町457）

【大きさ】像高（持国天）187.8cm （増長天）186.5cm
（広目天）187.7cm （多聞天）192.0cm

薬師寺東院堂（国宝）に安置される四天王像で、うち多聞天の台座の銘文により東院堂に安置するために^{しょうおう}正応2年（1289）に彫刻作業を行い、永仁4年（1296）に表面の彩色を行ったことが知られる。大型で保存良好、かつ優れたさばえにより、鎌倉後期四天王像を代表する遺品と評価される。（鎌倉時代）



⑨ { もくぞう に う みょうじんざ ぞう
木造丹生明 神坐像
もくぞう こうや みょうじんざ ぞう
木造高野明 神坐像

一 軀

一 軀

【所有者】 宗教法人丹^{たんじょう}生神社（広島県世羅郡世羅町甲山 1 5 1）

【大きさ】 像高（丹生明神）6 2 . 1 cm （高野明神）6 1 . 2 cm

高野山が備^{びんごのくに}後国大田^{おおたのしょう}庄
の経営拠点として設けた真
言宗寺院，今高野山の鎮守^{ちんじゅ}
社^{しゃ}に伝わる一対の男女神像^{だんじょしんぞう}
で，近年調査が行われ，初
めて学界にその存在が知ら
れることとなった。平安風
をとどめた作風より，大田^{おおたの}
庄^{しょう}の高野山寄進からさほど
隔たらない鎌倉初期の製作
とみられる。この時代の神
像の優品である。（鎌倉時代）



⑩ もくぞうしんのうめん
木造神王面

一面

【所有者】 宗教法人生目神社（宮崎県宮崎市大字生目 3 4 5）

【大きさ】 縦 5 1 . 3 cm

縦が五十センチを超える大型の仮面で、こうした面は神王面しんのうめんと呼ばれ、南九州に多く遺っている。人がつけるのではなく、神人しにんが年貢徴収時に捧持ほうじするなどの使われ方をされ、神体に近い扱いを受けていた。この面は宝治 2 年（1 2 4 8）の銘があり、この種の面としては突出して古く、また迫力に富んだ造形も注目される。近年進めている仮面の指定の促進の一環として、重要文化財に指定する。（鎌倉時代）



⑪ { もくぞうけんぼうし どんざぞう
木造乾峯土曇坐像
もくぞうがくおうちょうほ ざぞう
木造岳翁長甫坐像

一 軀

一 軀

【所有者】宗教法人大光寺（宮崎県宮崎市佐土原町上田島 7 6 7）

【大きさ】像高（乾峯土曇）80.2 cm （岳翁長甫）79.6 cm

本件は日向に禪宗寺院として開かれた大光寺に伝わる、開山である^{がくおうちょうほ}岳翁長甫と、その師であり京都東福寺の住持をつとめた^{けんぼうし どん}乾峯土曇の肖像彫刻。岳翁が自らの肖像を製作させるに先立ち師の像を造ったと想定される。南北朝時代肖像彫刻のうち製作優秀で、かつ製作事情がうかがえる作例である。（南北朝時代）



＜工芸品の部＞

（有形文化財を重要文化財に 7 件）

① ^{べにちりめん} 紅縮緬^{きっこうひしたすきもん}地^{ようそうかのこしぼり}総鹿子絞^{こそで}小袖 一領

【所有者】独立行政法人国立文化財機構（東京都台東区上野公園 1 3 - 9）
京都国立博物館保管

【大きさ】身丈 1 4 7 . 0 cm 衿 6 1 . 0 cm

^{べにちりめん} 紅縮緬^{きっこうひしたすき}地に^{ようそうかのこしぼり}総鹿子絞^{こそで}りで文様を表した小袖。
文様構成は、背面左袖から右裾にかけて緩やかな曲線を表し、その曲線を境目に、右上部には^{ひしたすき}亀甲文様、左下部に^{ふちはく}菱^{きんし} 櫛文様を表している。それぞれの輪郭には縁箔、曲線には金糸による^{ししゅう}刺繍が施されている。

江戸時代前期における小袖の様相を知ることができる貴重な作品であるため、重要文化財に指定する。（江戸時代）



② ^{うすきちりめん} 薄黄縮緬^じ地^{たかついたてもん}鷹衝立^{ようぜんぞめ}文様友禅染^{ふりそで}振袖 一領

【所有者】独立行政法人国立文化財機構（東京都台東区上野公園 1 3 - 9）
東京国立博物館保管

【大きさ】身丈 1 5 9 . 0 cm 衿 6 2 . 5 cm

^{うすきちりめん} 薄黄縮緬^じ地に^{ふりそで}友禅染^{ししゅう}と^{たか}刺繍^{つuitate}の技法を用いた振袖。文様は、友禅染で鷹と衝立を色彩豊かに大胆な構図で表している。衝立の中に表されている梅は、途切れながらも枝振りのよい一本の立木を表現している。本作品は文様表現と友禅染の技術の点から見ても優れた一領であるため、重要文化財に指定する。（江戸時代）



③ ^{はらようゆうさい}原羊遊齋作 ^{さかいほういつ}酒井抱一下絵
^{つるうめもどき}蔓梅擬 ^{まきえじくぼん}目白蒔絵軸盆

一枚

【所有者】東京都（東京都新宿区西新宿2－8－1）

東京都江戸東京博物館保管

【法 量】高3.5cm 縦41.0cm 横22.1cm

絵巻物を載せるための軸盆。^{えどりんば}江戸琳派の画家,^{さかいほういつ}酒井抱一の下絵をもとに,^{まきえし}蒔絵師, ^{はらようゆうさい}原羊遊齋が蒔絵を施した江戸後期の漆工を代表する優品。長方形の盆の見込みに、対角に蔓梅擬を配し、蔓に止まる二羽の目白を表し、蔓梅擬の実には赤い珊瑚^{さんご}をあしらった、^{しょうしゃ}瀟洒な作品である。抱一の下絵と盆の依頼主への書簡が伴い、資料的価値も高く貴重な作例であるため、重要文化財に指定する。（江戸時代）



④ ^{のうしょうぞく}
能装束

四領

【所有者】一般財団法人 J. フロント リテイリング史料館

(愛知県名古屋市中区栄3-16-1)

【法 量】^{こんじしょうぶよもぎさくきりもんようこそで}
(紺地菖蒲蓬菊桐文様小袖) 身丈115.0cm 衿48.0cm
^{もえぎじもんいりこうししまふじもんようかたみがわりあつた}
(萌黄地紋入格子縞藤文様片身替厚板)

身丈141.0cm 衿62.3cm

^{うすきじもんいりこうしろうこもんようかたすそあつた}
(薄黄地紋入格子鱗文様片裾厚板) 身丈112.5cm 衿65.5cm

^{ちやじもんいりこうしもんようあつた}
(茶地紋入格子文様厚板) 身丈141.0cm 衿66.5cm

^{こんばるけでんらい}もと金春家伝来の能装束4領。それぞれに柔らかな糸渡りの^{ししゅう}刺繍を用いた文様表現や、複数の色糸を用いて華麗な文様を^{うきおり}浮織で表すなど、桃山から江戸時代の能装束の特徴をよく示している。また、当時代の能装束の姿をよく留めている^{とど}現存品は少い。本件は極めて良好な状態で伝存している貴重な遺品であるため、重要文化財に指定する。(桃山時代～江戸時代初期)



⑤ ^{こうち おおがめ こうごう} 交趾大亀香合

一合

【所有者】公益財団法人藤田美術館

(大阪府大阪市都島区網島町10-32)

【法 量】総高6.1cm 口径7.3～10.0cm 底径4.0～5.8cm

亀を^{かたど}象った交趾^{こうち}香合^{こうごう}の中でも特に大振りであることから、大亀と呼ばれている。本作は、釉薬^{ゆうやく}の発色が明るく、色彩豊かで名品として知られる。大らかな姿が交趾形物香合の特色だが、本作も目や口^{くち}、四肢^{しし}の表現は単純化されて、飄逸^{ひょういつ}味がある。形物香合の多様性と茶陶の交易の様相の一端を示す。近世茶道史においても意義深い作品であるため、重要文化財に指定する。(明時代)



⑥ ^{きんぎん と きつかもん ちらし どうすいびょう} 金銀鍍菊花文散銅水瓶

一口

【所有者】宗教法人引接寺^{いんじょうじ}

(福井県越前市京町3-3-5)

【法 量】総高29.6cm 身高27.6cm 口径9.2cm 胴径13.9cm

仏教寺院において供養具^{くようぐ}として用いられた志貴^{しぎ}形水瓶^{がたすいびょう}。全面に鍍銀による菊花文を散らし、注口^{とぎん}と把手^{きつかもん}、及び蓋上の獅子鈕^{ししちゆう}は鍍金仕上げとして^{とぎん}いる。また、注口の付根^{つけね}と把手には、牡丹文^{ぼたんもん}の装飾^{いあが}が施されて優美である。 casting も極めて良好で、鎌倉時代における水瓶の代表作であるため、重要文化財に指定する。(鎌倉時代)



⑦ いろえつばきもんおおざら^{なべしま} 色絵 椿 文大皿 鍋島

二枚

【所有者】公益財団法人鍋島報効会^{ほうこう}

(佐賀県佐賀市松原2-5-22)

【法 量】(染付) 高9.7cm 口径38.7cm 底径19.5cm

(色絵) 高9.4cm 口径39.1cm 底径20.3cm

一尺を超える優美な大皿である。口縁の唐草文様や、見込みの椿文^{つばきもん}は、黄、黒、茶、赤、二色の緑など多彩な色絵を用いて綿密に描かれている。椿文の輪郭を一方は染付^{そめつけ}、もう一方は黒の色絵で表している点が特徴である。そのうち、前者の表現は鍋島焼に定着し、後者は民間の柿右衛門様式などに受け継がれたと考えられる。1650年代^{いわやがわち}に有田の岩谷川内の藩窯で製作されたと考えられ、初期の鍋島焼を考える上でも重要な作品であるため、重要文化財に指定する。(江戸時代)



<書跡・典籍の部>

(重要美術品を重要文化財に 1件)

① げんじものがたり^{みゆき} 源氏物語 行幸

一帖

【所有者】国(文化庁保管)

【大きさ】縦22.6cm 横14.1cm

本帖は『源氏物語』54巻のうちの「行幸」^{みゆき}の巻の一帖で、藤原定家(1162~1241)の監督の下に書写された原本に当たる。『源氏物語』の現存最古写本のひとつであり、巻末には定家の注釈である奥入^{おくいり}がある。(鎌倉時代)



(有形文化財を重要文化財に 3件)

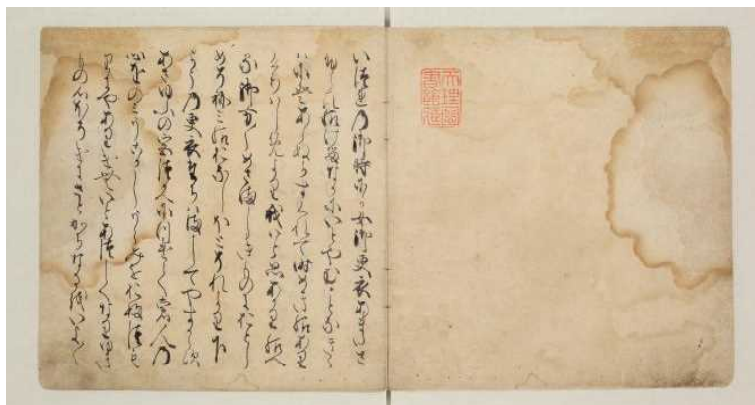
① ^{げんじものがたり いけだぼん}源氏物語 (池田本)

四十九帖

【所有者】 学校法人天理大学 (奈良県天理市柚之内町1050)

【大きさ】 おおむね縦16.3cm 横15.7cm

本書は鎌倉時代後期の成立となる、藤原定家本系の『源氏物語』の写本である。内容は源氏54巻のうちの52巻(49^{じょう}帖)であり、このうち48巻が成立当初のものである。奥入^{おくいり}のある鎌倉時代写本として、これだけ多くの巻が残されている写本は他には



なく、『源氏物語』研究上、大変貴重なものであるため、重要文化財に指定する。(鎌倉時代)

② ^{こんし きんじほけきょう}紺紙金字法華経

八巻

【所有者】 宗教法人金剛峯寺 (和歌山県伊都郡高野町高野山132)

【法 量】 縦29.7cm 全長10m前後

類例の少ない11世紀^{こうらい}の高麗写経。藍染した紺色の紙に金字で書写^{しはい}し、紙背(紙の裏側)には銀で宝相華唐草文^{ほうそうげ からくさもん}を巻首から巻末まで通して描く。保存状態もよく、各巻首尾完存している。江戸時代中期には高野山の御影堂^{みえどう}にあった。(高麗時代)

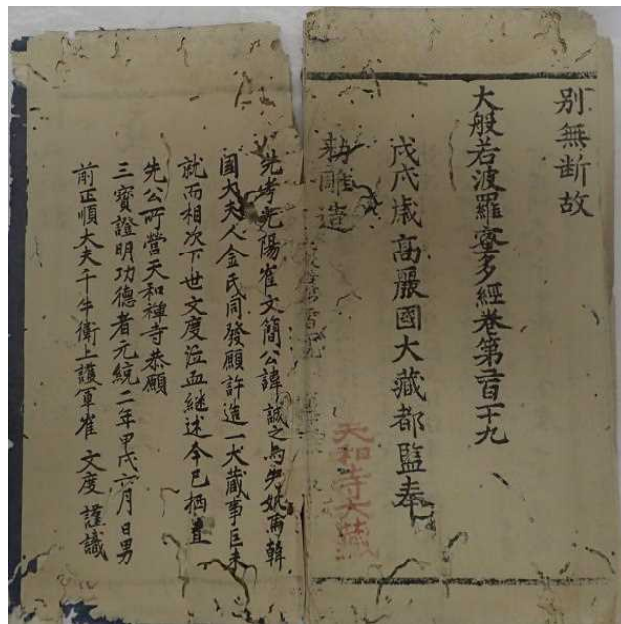


③ ^{こうらいばんだいはんにやきよう}高麗版大般若經

百六十五帖

【所有者】宗教法人金剛院（長崎県対馬市厳原町^{つつ}豆敷3342）

^{こうらい}高麗で印刷された再^{さいちようぼん}雕本高麗版のうちで、我が国に現存する最古の經典。対馬の島主^{そうさだもり}宗貞盛が寄進したので、15世紀には日本に伝来した。
附^{つきたり}の文書は、歴代宗氏当主が金剛院の領地を認めた文書で、当經典を寄進した宗氏と金剛院の関係をよく示す内容。（高麗時代）



<古文書の部>

（有形文化財を重要文化財に 4件）

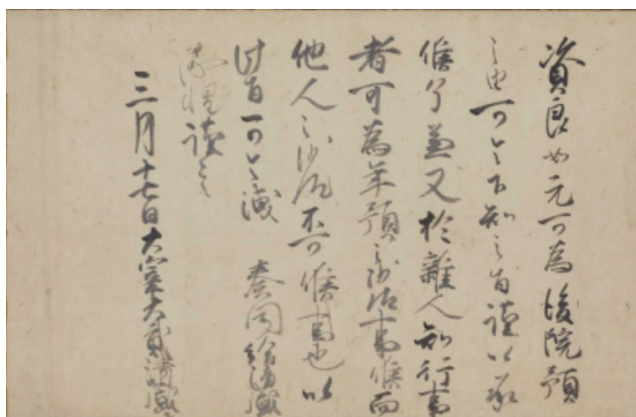
① ^{たいらのきよもりうけがみ}平清盛請文

一幅

【所有者】国（文化庁保管）

【法 量】縦31.2cm 横48.4cm

平清盛が「大^{ださいのだい}宰大弐」であった42～43歳の時の自筆文書。二条天皇から、安倍資良^{あべのすけよし}を元のごとく後院の預^{あずかり}職という職に就かせるように命じられたことを、承知した旨を申し述べた内容。清盛のほかの自筆文書は本文の一部が欠失しているのに対して、本文書は本文が完存している点においても古文書学上、書道史上においても極めて価値が高い。（平安時代）



② ^{みょうつうじ きしんふだ} 明通寺寄進札

三百九十六枚

【所有者】宗教法人明通寺（福井県小浜市門前5－21）

明通寺に錢や米等を寄進したことを板に記して本堂内の^{はり}梁等に打ち付けて掲示したもの。両親の^{ぼだい}菩提を弔う等、寄進の願意が記されている。時代によって形状に変遷があり、長方形の板に墨書したものだけでなく、駒形のものや黒地に朱字で書いたもの等がある。中世・近世における、地域の信仰の一形態を示すものとして貴重である。（鎌倉時代～江戸時代）



③ ^{ちやうめいじもんじよ} 長命寺文書（四千五百六十七通）

四十巻，九百八十二冊，三千八十五通，四十七鋪，六十四綴，百四十三枚

【所有者】宗教法人長命寺（滋賀県近江八幡市長命寺町157）

長命寺は西国三十三カ所巡礼寺院の三十一番目札所で，寺領の経営等に係る平安時代から明治時代に至る古文書群。^{まんだら}曼荼羅は，折り畳んで持ち運び，^{えと}絵解きをして^{かんじん}勧進に用いたもの。（平安時代～明治時代）

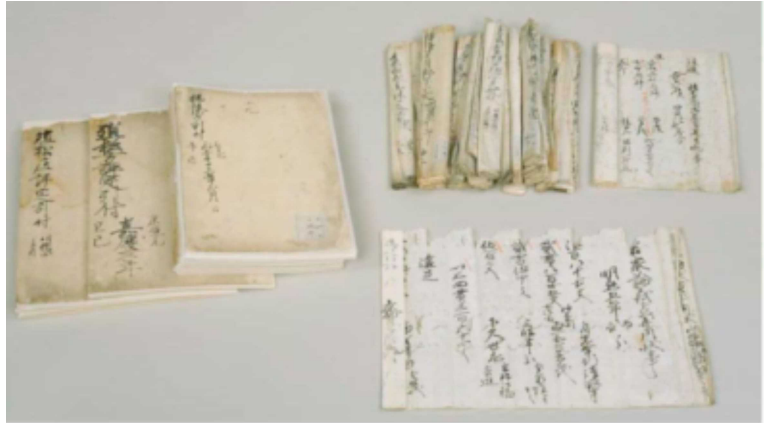


④ ^{とうじれいほうぞうもんじょ}東寺靈寶藏文書（二百三十六通）

八巻，二十七冊，二百通，一鋪

【所有者】宗教法人教王護国寺（京都府京都市南区九条町1）

^{とうじれいほうぞうもんじょ}東寺靈寶藏文書は東寺靈寶藏に納められていた東寺伝来の文書のまとまりである。これらは本来，国宝・^{ひやくごう}東寺百合文書や重文・教王護国寺文書と一具であった。よって内容的にもこれらと同様に，寺内組織運営に関する^{ひきつけ}引付や寺領関連



の訴訟文書が多い。国宝・東寺百合文書を補完するまとまった量の文書群として貴重であるため，重要文化財に指定する。（鎌倉時代～安土桃山時代）

<考古資料の部>

（有形文化財を重要文化財に 7件）

① ^{ならけん}奈良県キトラ古墳出土品

一括

【所有者】国（文化庁保管）

キトラ古墳壁画体験館四神の館保管



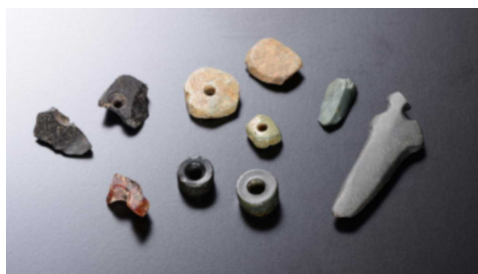
古墳は奈良県明日香村にあり，高松塚古墳と並ぶ我が国二例目の大陸風の彩色壁画が描かれた飛鳥時代の古墳として著名である。本件は，石室から出土した木棺の^{かざり}飾金具，^{かなぐ}刀装具，玉などから構成される一括で，^{きんぎんそうおびとりかなぐざんけつ}金銀装束執金具残欠や^{こんどうすかしぼりざかなぐ}金銅透彫座金具など類例の希な遺物を含む。畿内中枢部における終末期古墳の葬送の実態を示す遺物として，学術的価値が高い。（飛鳥時代）



② 北海道八千代A遺跡出土品 一括

【所有者】 帯広市（北海道帯広市西五条南7丁目1）
帯広百年記念館保管

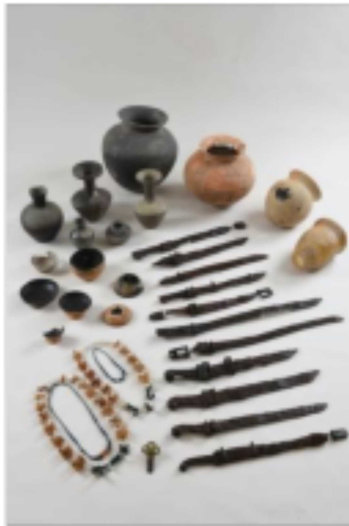
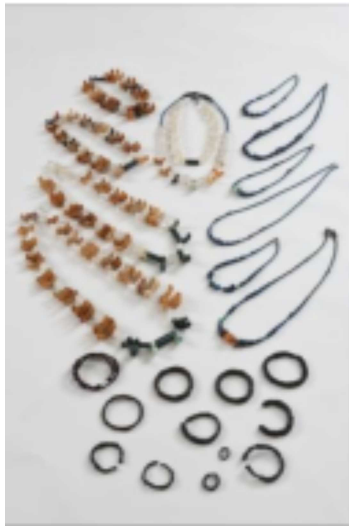
縄文時代早期前半の大規模な集落跡から出土した，多数の縄文土器と石器から構成される一括。帆立貝の貝殻圧痕を底部に持つ深鉢形土器が特徴的で，多量の石器や動物の頭部を象った土製品，琥珀玉などの装身具もある。北海道東部で最初に盛行した縄文時代早期の多彩な文化様相を示す資料であり，日本列島において早い段階に確立した，堅穴住居を主とした大規模集落跡からの出土品としても価値が高い。（縄文時代）



③ ^{あおもりけんたんごたいこふんぐんしゅつどひん}青森県丹後平古墳群出土品 一括

【所有者】八戸市（青森県八戸市内丸1－1－1）
八戸市博物館保管

飛鳥時代から平安時代にかけて造られた、小規模な円墳や土坑墓から出土した副葬品や墓前祭祀に用いられた土器の一括。^{さかし}なかでも、朝鮮半島で作られたとみられる黄銅製の「^{おうどう}金装獅嚙三累環頭大刀柄頭」は国内で出土例がなく、貴重である。東北地方に特徴的に分布する^{わらびてとう}蕨手刀や^{すずくしろ}錫釧、多量の玉などもあり、律令制^{りつりょうせい}が直接及ばなかった北日本における社会や墓制の在り方を考える上で、価値が高い。（飛鳥時代～平安時代）



④ ^{ふくしまけんあらやしきいせきしゅつどひん} 福島県荒屋敷遺跡出土品

一括

【所有者】三島町（福島県大沼郡三島町大字宮下字宮下350）
三島町交流センター・福島県立博物館保管

縄文時代晩期を中心とした低湿地^{あかうるしぬり}遺跡からの出土品一括。赤漆塗土器や漆の貯蔵容器、彩色用のパレットとして使われた土器片などの漆工芸の実態を示す資料、赤漆塗^{まきひも}の巻紐や糸玉などの繊維製品、各製作段階を示す木製品など、遺^{のこ}ることの稀^{まれ}な有機質遺物は貴重である。これらは縄文時代の生業の実態を示し、日本海^{でんば}側からの文化伝播の在り方も伝える価値の高い資料である。（縄文時代）



⑤ ^{いばらきけんさんまいづかこふんしゅつどひん} 茨城県三昧塚古墳出土品

一括

【所有者】茨城県（茨城県水戸市笠原町978-6）
茨城県立歴史館保管

霞ヶ浦に面した沖積^{ちゅうせき}低地に築かれた前方後円墳からの出土品一括。金銅製の装飾品や、銅鏡、鉄製の武器・武具、金銅装の馬具など見るべきものが多い。なかでも馬形の立飾りが付く金銅馬形飾付透彫冠^{こんどうまがたかざりつきすかしぼりかんむり}は、他に類例のない貴重な遺品である。本件は、東国の古墳副葬品として傑出した内容を持ち、東国における首長層の葬送や社会実態を考える上で学術的価値が高い。（古墳時代）



⑥ ^{ならけん からこ かぎいせきしゅつどひん} 奈良県唐古・鍵遺跡出土品

一括

【所有者】 田原本町（奈良県磯城郡田原本町 8 9 0 - 1）

田原本町埋蔵文化財センター保管

奈良盆地のほぼ中央部に位置する，弥生時代を主とした大規模な環濠集落からの出土品一括。大和地域の土器編年の指標とされる土器，吉備や尾張など遠隔地から搬入された土器を始め，楼閣建物を線描した絵画土器片や，銅鐸の鑄型外枠や送風管（^{ふいご} 轆の羽口）などの鑄造関連遺物，^{かんごうしゅうらく} 褐鉄鉦容器に納められた硬玉勾玉など，内容は極めて多彩である。本件は，弥生時代の生業や金属鑄造，祭祀や精神文化を復元する上で欠かすことのできない資料である。（弥生時代～古墳時代）



⑦ ^{しまねけんかみえんやつきやまこふんしゅつどひん} 島根県上塩冶築山古墳出土品

一括

【所有者】 出雲市（島根県出雲市今市町 7 0）

出雲弥生の森博物館保管

出雲平野に築かれた古墳時代後期の円墳からの出土品一括。^{こんどうかん} 金銅冠，^{きんぎんそうえんとう} 金銀装円頭大刀，金銀装と銀装の馬具二組などがあり，なかでも馬装を構成する各部がほぼ欠けることなく揃う金銀装の馬具一式は，古墳時代の飾り馬を具体的に復元するための貴重な資料となっている。これらは，西日本における後期古墳の副葬品として卓越した内容を誇り，日本海沿岸地域における古墳時代の首長墓副葬品の実態を知る上で，高い価値を有する。（古墳時代）



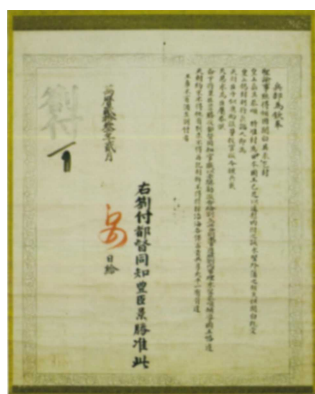
＜歴史資料の部＞

（重要文化財を分割して重要文化財に 1 件）

- ① { ^{みんこくさつぷ} ^{うえすぎかげかつ}
^{みんかんぶくるい} ^{ぶんろく} ^{うえすぎかげかつじゅぞう}
明国箭付上杉景 勝宛 一幅
明冠服類（文禄五年上杉景 勝受贈） 一括

【所有者】 宗教法人上杉神社（山形県米沢市丸の内1－4－13）

文禄5年（1596）、文禄の役後の日明間の和平交渉に際し、来日した明国使節は豊臣秀吉を日本国王に冊封し冠服類を下賜した。本資料は、同時に上杉景勝に与えられた文書と冠服であり、明国の武官である都督同知に任じた文書は箭付という形式をとる。両者とも遺例稀な明時代の文化財として貴重であるだけでなく、秀吉家臣宛の箭付と冠服が一括で伝来する唯一の事例である。近年、日明間の外交史上に本資料群を位置づける研究が進展したことをうけ、既指定である服飾類を分割し、箭付を本指定として冠服とともに歴史資料分野の重要文化財とする。（明時代）



（米沢市上杉博物館提供）

(重要美術品を重要文化財に 1 件)

- ① { ^{あんなんこくだいととかんげんこうしょうかん}
安南国大都統官阮漢書簡 ^{かとうきよまさ} 加藤清正宛
^{あんなんこくだいととかんげんこうしょうかん}
安南国大都統官阮漢書簡 ^{かとうきよまさ} 加藤清正宛
- 一幅
一幅

【所有者】 宗教法人本妙寺（熊本県熊本市西区花園 4－1 3－1）

【大きさ】（弘定 10 年）縦 30.1 cm 横 39.3 cm

（弘定 11 年）縦 29.0 cm 横 38.4 cm

17 世紀初頭に^{あんなんこく}安南国中南部を統治した
^{だいととかんげんこう}大都統官阮漢が加藤清正に宛てた書簡 2 幅
である。加藤清正と安南国との外交，交易
関係を背景に発給されたもので，当該期の
日本と安南国等との外交史，朱印船貿易史
等を研究する上で学術価値が高い。加えて
現在 10 通が確認されるにすぎない，伝来
^{まれ}稀な安南国発給の外交文書原本として古
文書学研究上に価値が高い。（黎時代）



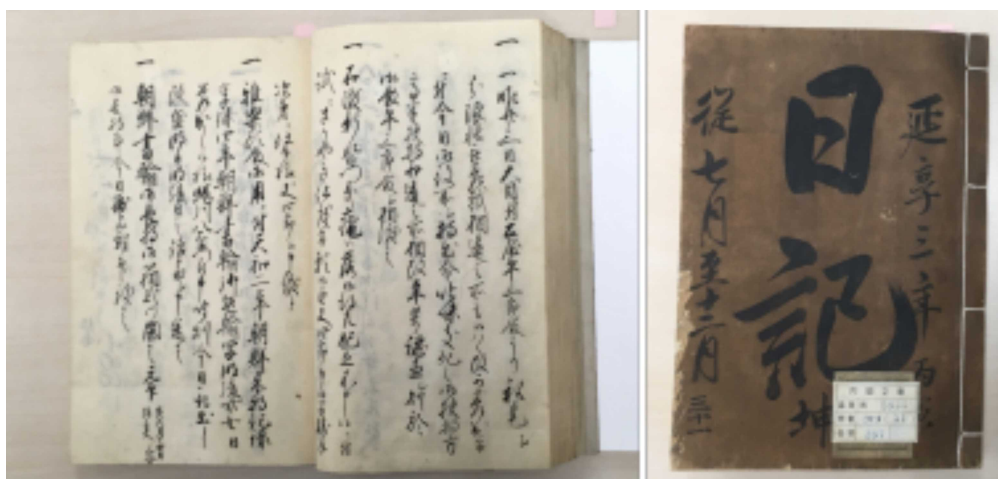
(有形文化財を重要文化財に 6 件)

① ^{え ども ばくふしよもつかたかんけいしりよう}江戸幕府書物方関係資料

一括

【所有者】独立行政法人国立公文書館（東京都千代田区北の丸公園 3－2）

江戸城内紅葉山文庫^{もみじやまぶんこ}の蔵書管理を行った書物方^{しよもつかた}が、用務上に作成した日記を中心とする記録類^{ほうえい}で、宝永3年（1706）から安政4年（1857）^{あんせい}までの150年間に及ぶ。江戸幕府の政治、学問のありようを窺^{うかが}う上で、あるいは旗本・御家人の勤務実態を研究する上で基礎史料として価値が高く、原本がほとんど伝来しない江戸幕府諸機関作成の日記の中で最もまとまった原本群のひとつとして古文書学上にも貴重である。（江戸時代）



② { ^{あんなんこく ふくとどう ふくぎ こうげん しょかん} 安南国副都堂福義侯阮書簡 ^{にほんこくこくおう} 日本国国王宛
^{あんなんこく ぶんり こうしょかん} 安南国文理侯書簡 ^{にほんこくしょうにん いちろうへきざんはくとう} 日本国商人市良碧山伯等宛

一通

一幅

【所有者】独立行政法人国立文化財機構（東京都台東区上野公園 1 3 - 9）

九州国立博物館保管

【法 量】（福義侯）縦 3 3 . 3 cm 横 3 5 . 0 cm

（文理侯）縦 2 9 . 0 cm 横 3 8 . 4 cm

近年九州国立博物館の所蔵に帰した安南^{ふくぎ こうげん}国書簡二通である。福義侯阮書簡は、光興^{こうこう}14年（1591）という国家間の外交関係が成立していない年代における両地域間の交易活動の一端を窺^{うかが}わせる稀少^{きしょう}な文書である。文理侯書簡は、遭難した角倉船^{ふんりこう すみのくらせん}の船員を日本へ送還する旨を告げたものである。日本と安南国との間の外交史，交易史等を研究する上で，また伝来^{まれ}稀な安南国発給の外交文書原本として古文書学研究上に価値が高い。（黎時代）



③ ^{けいしき}ED四〇形式^{ごうでんきかんしゃ}一〇号電気機関車 ^{てつどうしょうおおみやこうじょうせい}大正十年，鉄道省大宮工場製 一両

【所有者】東日本旅客鉄道株式会社（東京都渋谷区代々木2-2-2）
鉄道博物館保管

本形式は、旧信越本線横川―軽井沢間の急勾配区間線用の電気機関車として、大正8年度（1919）から14両が鉄道省大宮工場にて製造された。幹線用として量産された国産電気機関車としては最も古い。急勾配区間用の機関車として高い運転機能を有し、幹線鉄道電化の黎明期において、難所として名高い碓氷峠にて輸送実績をあげた。我が国における電気機関車の歴史、鉄道史上において記念碑たるべき車輈である。（大正時代）



④ ^{けいしき}ED一六形式^{ごうでんきかんしゃ}一号電気機関車 ^{みつびしぞうせんかぶしきがいしゃ}昭和六年，三菱造船株式会社，
^{みつびしでんきかぶしきがいしゃせい}三菱電機株式会社製 一両

【所有者】東日本旅客鉄道株式会社（東京都渋谷区代々木2-2-2）
青梅鉄道公園保管

本形式は、鉄道省と民間会社との共同設計による勾配区間に対応した電気機関車で、昭和6年（1931）から各社で18両が製造された。性能や取扱いに優れ、本車輈は戦前から戦後期にかけ中央線、青梅線、南武線等で長期間使用された。最初期の国産電気機関車であり、電気機関車国産化の基礎を築いた車輈として、我が国の電気機関車の歴史、鉄道史上に高い価値を有する。（昭和時代）

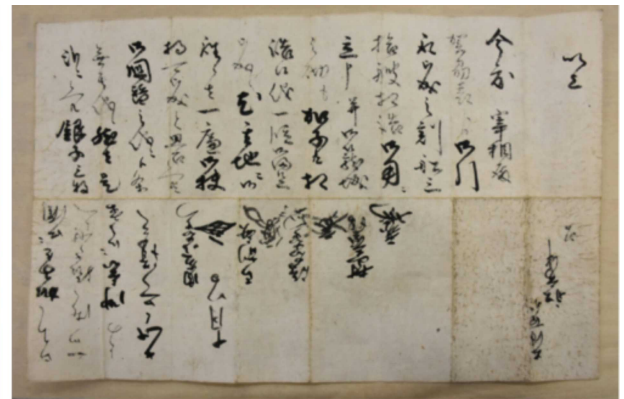
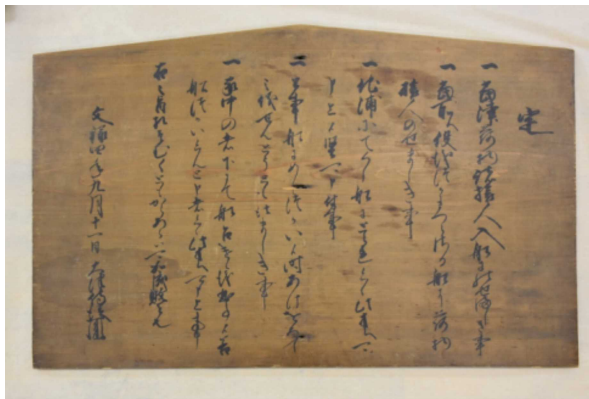


⑤ ^{おおつひやくそうせんかんけいしりょう}大津百艘船関係資料

一括

【所有者】個人蔵

^{おおつひやくそうせん}大津百艘船とは、^{てんしやう}天正15年（1587）に、^{あさのながよし}大津城主浅野長吉が大津に集めた船持の集団を指し、大津からの人と物資輸送の独占という特権を与えられ、公用輸送を担った。江戸時代も幕府の公用船として琵琶湖水運において中心的な役割を果たした。本資料群は、大津百艘船船持仲間に伝来した資料群で、文書・記録類、^{こうさつ}高札類、器物類から構成される。近世の琵琶湖水運の歴史を知る上において基礎資料であり、交通史、経済史等研究上に価値が高い。（安土桃山時代～明治時代）



⑥ ^{きょうともうあいんかんけいしりょう}
京都盲啞院関係資料

一括

【所有者】 京都府（京都府京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町）

京都府立盲学校・京都府立聾学校保管

京都府立^{もう}盲学校及び^{ろう}聾学校の前身である^{もうあいん}京都盲啞院は、明治11年（1878）に京都に創立された日本最初の公立の特別支援学校である。本資料群は京都盲啞院及び後継学校に伝来したもので、教材・教具類、典籍・教科書類、凸字・点字資料、生徒作品など学校教育で使用された多様な資料群から構成される。近代の^{もう}盲・^{ろう}聾教育において先駆的な役割を果たした京都盲啞院の歴史及び同校にて実践された教育内容を明らかにする資料群であり、我が国の盲・聾教育史ひいては近代教育史研究上に学術価値が高い。（明治時代～昭和時代）

